



RTMT でのアラート設定

RTMT には、あらかじめ設定されているアラートとユーザ定義のアラートという 2 つの種類のアラートがあります。どちらの種類のアラートも設定できますが、あらかじめ設定されているアラートは削除できません。あらかじめ設定されているアラートやユーザ定義のアラートを RTMT で使用不可能にすることができます。

あらかじめ設定されているアラート、アラートのカスタマイゼーション、およびアラートを設定できるアラートアクションフィールドについては、『*Cisco Unified CallManager Serviceability システムガイド*』の「アラート」を参照してください。

アクティブにされているサービスが稼働状態から停止状態になると、RTMT によりアラートが生成されます。Alert Central を使用して、RTMT によって生成されるアラートの状況と履歴を表示できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [アラートの操作 \(P.8-2\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.8-4\)](#)
- [Cisco Unified CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.8-7\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.8-8\)](#)
- [アラートアクションの設定 \(P.8-8\)](#)

アラートの操作

次の手順を実行して、Alert Central へのアクセス、アラート情報のソート、アラートの有効化、無効化、削除、アラートのクリア、またはアラート詳細の表示などの操作を実行できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- Quick Launch Channel で、**Tools** タブ、**Alert** タブの順にクリックし、**Alert Central** アイコンをクリックします。
- **Tools > Alert > Alert Central** の順に選択します。

RTMT が Cisco Unified CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- アラートのプロパティを設定する場合は、P.8-4 の「アラート プロパティの設定」を参照してください。
- Cisco Unified CallManager ノードのアラートを一時停止する場合は、P.8-7 の「Cisco Unified CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止」を参照してください。
- アラートの電子メール通知を設定する場合は、P.8-8 の「アラート通知用電子メールの設定」を参照してください。
- アラート アクションを設定する場合は、P.8-8 の「アラート アクションの設定」を参照してください。
- Alert Status ペイン内のアラート情報をソートする場合は、列見出しで上向き矢印または下向き矢印をクリックします。たとえば、Enabled 列や InSafeRange 列の上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

Alert History ペインの列の上向き矢印または下向き矢印をクリックすると、アラート履歴情報をソートできます。ペインに表示されていないアラート履歴を表示するには、Alert History ペインの右側にあるスクロールバーを使用します。

- アラートを有効化、無効化、または削除するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - Alert Status ウィンドウで、アラートを右クリックし、目的の操作に応じて、**Disable/Enable Alert** (オプション トグル) または **Remove Alert** を選択します。
 - Alert Status ウィンドウでアラートを強調表示し、**Tools > Alert > Disable/Enable** (または **Remove**) **Alert** の順に選択します。



ヒント ユーザ定義のアラートに限り、RTMT から削除できます。あらかじめ設定されているアラートを選択すると、Remove Alert オプションがグレー表示されます。

- アラートを解決した後、アラートを個別に、またはまとめてクリアするには、次のいずれかの操作を実行します。
 - Alert Status ウィンドウが表示されたら、アラートを右クリックし、**Clear Alert** (または **Clear All Alerts**) を選択します。
 - Alert Status ウィンドウでアラートを強調表示し、**Tools > Alert > Clear Alert** (または **Clear All Alerts**) の順に選択します。
- アラートをクリアすると、アラートの色が赤から黒に変わります。

- アラートの詳細を表示するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - Alert Status ウィンドウが表示されたら、アラートを右クリックし、**Alert Details** を選択します。
 - Alert Status ウィンドウでアラートを強調表示し、**Tools > Alert > Alert Details** の順に選択します。



ヒント アラートの詳細を確認したら、**OK** をクリックします。

追加情報

P.8-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アラート プロパティの設定

アラート プロパティを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.8-2 の「アラートの操作」の説明に従って、Alert Central を表示します。
- ステップ 2** Alert Status ウィンドウで、アラート プロパティを設定するアラートをクリックします。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。

- アラートを右クリックし、**Set Alert/Properties** を選択します。
- **Tools > Alert > Set Alert/Properties** の順に選択します。



(注) Cisco Unified CallManager のクラスタ全体のアラートの場合は、Alert Properties ウィンドウに Enable/Disable this alert on following server(s): ボックスが表示されません。クラスタ全体のアラートには、登録済みの電話機の数、ゲートウェイの数、メディア デバイスの数、すべて使用されたルート リスト、すべて使用されたメディア リスト、稼働していない MGCP D チャネル、悪意のあるコールのトレース、および限度を超えている品質レポートが含まれます。

- ステップ 4** アラートを使用可能にするには、**Enable Alert** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** Severity ドロップダウン リスト ボックスから、アラートの重大度を選択します。
- ステップ 6** Enable/Disable this alert on following server(s) ペインで、このアラートを有効にするサーバの Enable チェックボックスをオンにします。

あらかじめ設定されているアラートについては、Description 情報ペインにアラートの説明が表示されます。

- ステップ 7** **Next** をクリックします。
- ステップ 8** Threshold ペインに、システムがアラートをトリガーする条件を入力します。
- ステップ 9** Duration ペインで、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- Trigger alert only when below or over... オプション ボタン：値が特定の期間（秒単位）に常にしきい値を下回るまたは上回る場合に限り、アラートがトリガーされます。秒数を入力します。
 - Trigger alert immediately：アラートがすぐにトリガーされます。

ステップ 10 **Next** をクリックします。

- ステップ 11** Frequency ペインで、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- trigger alert on every poll：ポーリングのたびにアラートがトリガーされます。
 - trigger up to <numbers> of alerts within <number> of minutes：特定の分数の間に、特定の数のアラートがトリガーされます。アラートの数と分数を入力します。

ステップ 12 Schedule ペインで、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- 24-hours daily : アラートが1日24時間トリガーされます。
- Start time/Stop time : 特定の開始時刻と終了時刻の間のみアラートがトリガーされます。開始時刻と終了時刻を入力します。

ステップ 13 Next をクリックします。

ステップ 14 このアラートの電子メールを使用可能にする場合は、Enable Email チェックボックスをオンにします。

ステップ 15 このアラートでアラート アクションをトリガーするには、ドロップダウン リスト ボックスから、送信するアラート アクションを選択します。

ステップ 16 新しいアラート アクションを設定する場合、または既存のアラート アクションを編集する場合は、Configure をクリックします。

ステップ 17 新しいアラート アクションを追加するには、次の手順を実行します。

- a. Add をクリックします。
- b. Name フィールドに、アラート アクションの名前を入力します。
- c. Description フィールドに、アラート アクションの説明を入力します。
- d. 電子メール受信者を追加するには、Add をクリックします。
- e. Enter email/epage address フィールドに、アラート アクションを受信する受信者の電子メールまたは電子ページのアドレスを入力します。
- f. OK をクリックします。

Action Configuration ウィンドウに、追加した受信者が表示され、その Enable チェックボックスがオンになっています。



ヒント 電子メールの受信者を削除するには、その受信者を強調表示し、Delete をクリックします。選択した受信者が、受信者リストから削除されます。

- g. すべての受信者を追加したら、OK をクリックします。

ステップ 18 既存のアラート アクションを編集するには、次の手順を実行します。

- a. アラート アクションを強調表示し、Edit をクリックします。
選択したアラート アクションの Action Configuration ウィンドウが表示されます。
- b. 設定を変更して、OK をクリックします。

ステップ 19 アラート アクションの設定を終了したら、Close をクリックします。

ステップ 20 トレースのダウンロードが許可されていないアラートの場合は、Alert Properties: Email Notification ウィンドウで **Activate** をクリックします。

CriticalServiceDown や CodeYellow のようにトレースのダウンロードが許可されているアラートの場合は、次の手順を実行します。

- a. **Next** をクリックします。
- b. Alert Properties : TCT Download ウィンドウで、Enable TCT Download チェックボックスをオンにします。
- c. SFTP Parameters Dialog ウィンドウが表示されます。IP アドレス、ユーザ名、パスワード、ポート、およびトレースを保存するためのダウンロードディレクトリパスを入力します。SFTP サーバとの接続を確認するには、**Test Connection** をクリックします。接続テストに失敗した場合、設定は保存されません。
- d. **OK** をクリックして、設定を保存します。
- e. TCT Download Parameters ウィンドウに、ダウンロードの回数と頻度を入力します。ダウンロードの回数と頻度を設定すると、ダウンロードされるトレース ファイルを制限するのに役立ちます。設定されたポーリングが、頻度のデフォルト設定の基準となります。



注意

TCT Download を有効にすると、サーバ上のサービスに影響が生じることがあります。ダウンロード回数を大きくすると、サーバのサービス品質に悪影響が生じます。



(注)

アラート アクションを削除するには、そのアクションを強調表示し、**Delete** をクリックして、**Close** をクリックします。

追加情報

P.8-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止

特定の Cisco Unified CallManager ノードまたはクラスタ全体で、一部のアラートまたはすべてのアラートを一時的に停止する必要がある場合があります。たとえば、Cisco Unified CallManager を新しいリリースにアップグレードする場合、アップグレードが完了するまですべてのアラートを一時停止する必要があります。アラートを一時停止することにより、アップグレード中に電子メールや電子ページを受信しなくなります。Alert Central でアラートを一時停止する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Tools > Alert > Suspend cluster/node Alerts の順に選択します。



(注) サーバごとの一時的停止状況は、Cisco Unified CallManager クラスタ全体のアラートには適用されません。

ステップ 2 クラスタ内のすべてのアラートを一時停止するには、Cluster Wide オプション ボタンを選択し、suspend all alerts チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 サーバごとにアラートを一時停止するには、Per Server オプション ボタンを選択し、アラートを一時停止するサーバの Suspend チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 OK をクリックします。



(注) アラートを再開するには、再び Alert > Suspend cluster/node Alerts の順に選択し、suspend チェックボックスをオフにします。

追加情報

P.8-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アラート通知用電子メールの設定

アラート通知用の電子メールを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **Tools > Alert > Config Email Server** の順に選択します。

Mail Server Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Mail Server フィールドに、電子メールの受信者の情報を入力します。

ステップ 3 Port フィールドに、メール サーバのポート番号を入力します。

ステップ 4 **OK** をクリックします。

追加情報

[P.8-8 の「関連項目」](#) を参照してください。

アラート アクションの設定

新しいアラート アクションを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [P.8-2 の「アラートの操作」](#) の説明に従って、Alert Central を表示します。

ステップ 2 **Alert > Config Alert Action** の順に選択します。

ステップ 3 [P.8-4 の「アラート プロパティの設定」](#) の [ステップ 17](#) ～ [ステップ 20](#) を実行して、アラート アクションを追加、編集、または削除します。

追加情報

[P.8-8 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [アラートの操作 \(P.8-2\)](#)
- [アラート プロパティの設定 \(P.8-4\)](#)
- [Cisco Unified CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.8-7\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.8-8\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』の「アラート」
- [アラート アクションの設定 \(P.8-8\)](#)